

## P106c Tタウリ型星 V523 Ori の可視測光・分光観測

福田尚也, 山村春香 (岡山理科大学), 赤澤秀彦 (船穂天文台), 前原裕之 (国立天文台), 長谷川椋, 佐藤文衛 (東京工業大学), 泉浦秀行 (国立天文台), HIDES-F 運用グループ

V523 Ori は T タウリ型星のうち弱輝線 T タウリ型星に分類されている。若い天体の大きな増光は数年に一度見つかる現象で極めてまれであるが、2017 年 10 月にこの天体の増光が報告され、2013 年から 2017 年にかけて Ic で約 2 等の急な増光が見つかった。そこで我々は 2017 年 10 月から岡山理科大学天文台の 23.5cm の反射望遠鏡で測光観測を行った。増光中に取得された赤澤氏による船穂天文台での Rc、Ic、V、B フィルターの 37 夜の多色測光観測の解析結果からは、4 色のフィルターによる変動はどれも同じようだが、B フィルターでの変動が大きいことが分かった。また、2019 年 11 月には V523 Ori が増光前の明るさに戻っており、増光の継続時間はおおよそ 2 年半であった。そして増光中には見られなかった短時間の変動が確認されている。増光前の明るさに戻っていることや増光の継続時間がおおよそ 2 年半であること、増光と減光のライトカーブが対称であることから、増光のタイプは EX Lup 型であると考えられる。また、28cm 反射望遠鏡で 9 夜の分光観測を行っており、分光観測結果からは  $H\alpha$  の輝線がどの観測日においても確認ができている。等価幅はすべて  $10\text{\AA}$  よりも大きく、 $H\alpha$  の等価幅を基準とすると、今回の結果からは古典的 T タウリ型星と分類できる。